

よく使われる漢方薬のご紹介

Dr.Kの漢方薬講座

人参養栄湯
(ニンジシヨウエイトウ)



華陽診療所医師 粕谷 志郎

人参養栄湯は先に紹介しました十全大補湯と似た処方です。気(IIエネルギー)を補う四君子湯と血(血行、栄養の循環)を補う四物湯を合わせたものが中心となります。両者とも、1107年に編纂された「和劑局方」にみられます。人参養栄湯は、十全大補湯から川芎(センキュウ)を除き、遠志(オンジ)、陳皮(チンピ)、五味子(ゴミシ)を追加したもので、腎虚(腎機能低下、老化の諸症状)にも対応させています。長期にわたる疲弊と考えたらよいと思います。また、陳皮、五味子は鎮咳、去痰などの効果があり、強い疲労に加えて、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの呼吸器疾患にも対応します。

この時代に漢方薬に加えられたのが遠志です。記載は古いのですが、現在使用されている漢方薬に組み込まれたのはこの時期からです。イトヒメハギの根の部分で物忘れに効くとされています。漢方書には安神(あんしん)、去痰作用が記されています。遠志は同じ時代の記載となる帰脾湯(キヒトウ)、加味帰脾湯(カミキヒトウ)にも加えられており、現在でもうつ病の治療などに使われています。

人参養栄湯は、アルツハイマー病の治療にも使われ始めています。ドネペジル単独とドネペジルと人参養栄湯の併用との比較調査によると、前者では大きな変化はなかったが、後者では12ヶ月でアルツハイマー病のスコアの改善、抑うつスコアの改善が見られたとの報告もあります。成分の一つである陳皮に、動物実験で老化による脱ミエリンを抑える効果があることが確認されています。ミエリンは神経細胞の軸索を覆う絶縁のサヤで、神経伝達には欠かせない部分です。

また加齢変化でフレイルと言う状態に進むことが多くなります。体重の減少、歩行速度の低下、握力の低下、疲れやすさ、身体の活動レベルの低下などが引き起こされます。アルツハイマー病がありますと加速されます。こうしたフレイルの状態にある方にも人参養栄湯が服用されることが多くなっています。空腹時か食前に1回1包、1日2回(クラシエ漢方製剤)か3回(ツムラ漢方製剤)の服用となります。

医師ごあいさつ



みどり病院 鈴木 圭 医師

初期研修医2年目の鈴木圭と申します。2017年4月よりみどり病院で初期研修を行っております。入院対応、救急外来、小児科外来などの研修の日々を送

り、あつという間に2年間が過ぎようとしております。先生方、多職種の方々の助けのおかげで、少しずつ業務の幅も広がっていくことができました。まだまだ勉強不足で、ご迷惑をおかけしておりますが、医師として微力ながらもお役に立てるようになってきたと思っております。

先日のみどり病院健康まつりでは職員劇に参加させていただきます。今後ともよろしくお願いたします。

知って得する

「医療・社会保障制度」について

社会保険制度と病気には密接な関係があります。なぜなら社会保険制度は生存権を実現するために多くの方の力により勝ち取ってきたものだからです。そして制度間でも深いつながりがあります。例えば、

社会保険加入者が病気で働くことができなくなり、傷病手当で休職を余儀なくされた場合には、1年半しか保障を受けることは出来ません。しかし、1年半後には障害年金を受給できる可能性があります。あり、生活の支えになる場合もあります。更に重度障害であれば、1年半

を待たずして身体障害者手帳や時には特別障害者手当金という所得補償の制度に繋がる場合もあります。このように社会保障制度を点だけで捉えるのではなく、線や面で捉えることが大切です。そして各種制度の法律1条には制度の目的が書かれています。

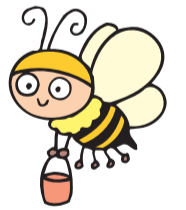
ほとんどが申請主義です。待っていても誰も案内はしてくれません。病気や怪我などで困った時には、病院の相談員や当院で発刊している「知っておいて得する社会保障制度」を活用して下さい。(島邊洋平)



食と農を考える

農薬と食

ネオニコチノイド系農薬とミツバチ①



しばらく、このテーマで農薬の問題について考えてみたいと思います。表題にあるネオニコチノイド系農薬という言葉ですが、ネオ=新しい、ニコチノイド=ニコチン(たばこから発生)に似た物質ということで、有機リン酸系殺虫剤などの旧来の農薬より、人には低毒性であり、少量で効果が強く、残効性(環境に長く残って効果を発する)があり、未来の農薬として使用が急速に増えています。特にカメムシ防除のために、水田の空中散布にも使われています。

農薬といえば、『複合汚染』(有吉佐和子著)や、『沈黙の春』のレイチェルカーソンの警告を思い出します。戦後に使用が広まった DDT などの塩素系農薬は、人にたいする強い毒性が指摘され、かわって有機リン酸系の農薬が使用されるようになりました。さらに、毒性の作用は同じでも、より低毒性ということでネオニコチノイド農薬が選ばれてきました。

このネオニコチノイド系農薬は、身近な家庭用の殺虫剤にもよく使われています。いちど自宅にある殺虫剤の成分について確かめてみてください。ここで煩雑ですが、つぎのような薬品名がないか調べてみてください。これは現在使用が許可されているネオニコチノイド系農薬の8つの成分名です。1. クロチアニジン 2. ジノテフラン 3. ニテンピラム 4. イミダクロリド 5. チアミトキサム 6. アセタミプリド 7. チアクロプリド 8. スルホキサフロル(2017年12月承認)です。これらの命名はその成分の化学構造に由来しています。

今回は、このネオニコチノイド系農薬の危険性や、これとミツバチとの関係について考えてみたいと思います。